

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	家族療法・ブリーフセラピー特論						
担当教員	坂本 真佐哉						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	家族療法（システムズアプローチ）やブリーフセラピーについて学び、実践する。						
授業の概要	家族療法（システムズアプローチ）やブリーフセラピーにおける問題解決や解決構築の理論と技法について学ぶことを目的とする。1970年代より発展してきたブリーフセラピーについて概観し、ブリーフセラピーにおける問題の捉え方、またはその解決、解決の構築などの考え方/哲学について学ぶ。また、事例やロールプレイを通して、技法の実際について体験的に学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族療法（システムズアプローチ）やブリーフセラピーの主要な理論と技法について説明できる。 2. 家族療法やブリーフセラピーの技法をロールプレイで実践できるようになる。 3. 家族療法やブリーフセラピーの視点で面接場面のコミュニケーションについて解説できる。 						
授業計画	第1回 家族療法（システムズアプローチ）の理論と実際 (1) 第2回 家族療法（システムズアプローチ）の理論と実際 (2) 第3回 家族療法（システムズアプローチ）の理論と実際 (3) 第4回 ブリーフセラピーの理論と実際 (1) 第5回 ブリーフセラピーの理論と実際 (2) 第6回 ブリーフセラピーの理論と実際 (3) 第7回 社会構成主義と解決構築 (1) 第8回 社会構成主義と解決構築 (2) 第9回 社会構成主義と解決構築 (3) 第10回 治療的会話について (1) 第11回 治療的会話について (2) 第12回 治療的会話について (3) 第13回 解決構築における技法論 (1) 第14回 解決構築における技法論 (2) 第15回 解決構築における技法論 (3)						
授業外における学習（準備学習の内容）	家族療法（システムズアプローチ）やブリーフセラピーの専門書を熟読し、理解すること。						
授業方法	講義、文献研究、グループディスカッション、ロールプレイ						
評価基準と評価方法	学びの姿勢や態度、面接技術の習熟度と理解度、発表や発言の内容などにより総合的に評価する。具体的には、ロールプレイの参加姿勢50%、ディスカッションの内容50%。						
教科書							
参考書	遊佐安一郎著「家族療法入門—システムズ・アプローチの理論と実際」星和書店 坂本真佐哉、和田憲明、東豊著「心理療法テクニックのすすめ」金子書房						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	学校臨床心理学特論						
担当教員	西井 克泰						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	学校臨床心理学の理論とその実際について学ぶ						
授業の概要	学校臨床心理学は何らかの不適応を引き起こした児童生徒を対象とする実践的な学問である。実践から構築された理論の全体を概観するとともに、実践について事例を通して学んでいく。理論的学びと実践的学びの両方を通して、学校臨床心理学の全体を包括的に学ぶ。						
到達目標	学校臨床心理学を包括的に学ぶことにより、学校臨床心理学の実践であるスクールカウンセリングを、臨床心理士としてどのように行うのか、その専門性を身につけることを到達目標とする。						
授業計画	第1回 臨床心理学（特に、児童・青年臨床心理学）とは 第2回 学校臨床心理学とは（範囲・対象など理論的概説） 第3回 学校不適応とは（学校ストレス・いじめ・不登校など現状の把握） 第4回 不適応対処の諸相（さまざまなつまづきとその本質的理解） 第5回 不適応児童生徒への支援事例（いじめ・不登校・発達障害関連） 第6回 学校臨床心理士とは（出立の背景・職務内容など） 第7回 学校臨床心理士による個人心理療法（理論と実際） 第8回 親面接（実際例を中心に） 第9回 集団面接（グループワークを中心に） 第10回 アセスメント（見立ての立て方） 第11回 心理テストの活用 第12回 コンサルテーション（教師との協働、教師への支援） 第13回 ト라우マ回復のための支援（学校事件・事故の実際と回復支援） 第14回 予防教育的視点（いじめ・不登校予防を中心として） 第15回 学校臨床心理士の展望						
授業外における学習（準備学習の内容）	集中講義であるので、集中講義が開始される前の事前学習として、学校臨床心理学に関する書籍や論文、ならびにスクールカウンセリングに関する書籍や論文をいくつか読んでおくことが望ましい。						
授業方法	講義（必要に応じて実習を交えて、講義を理解しやすくする）						
評価基準と評価方法	レポート（1回）60%、授業時の態度（授業への積極的参加、発表内容等）40%						
教科書	用いません。適宜、資料を配付します。						
参考書	スクールカウンセラーに関する文献は多数あります。興味のある方は、図書館で検索して読んでみてください。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	社会心理学特論I						
担当教員	土肥 伊都子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会心理学と臨床心理学のインターフェイスについての学習						
授業の概要	「はじめての臨床社会心理学」の教科書を輪読し、これまで臨床心理学が扱ってきた問題に対して、主に自己と対人関係に関する社会心理学から読み解いていく。						
到達目標	社会心理学の知見を生かして、臨床心理学の諸問題を考えるようになること。						
授業計画	第1回 オリエンテーション、指定討論者割り当て 第2回 教科書序章 新しい領域：臨床社会心理学とは 第3回 教科書第1章 原因帰属理論と帰属のバイアス 第4回 教科書第2章 さまざまな帰属療法と抑うつ・認知療法 第5回 教科書第3章 原因帰属と学業成績 第6回 教科書第4章 自己注目と行動 第7回 教科書第5章 抑うつの自己注目理論 第8回 教科書第6章 自己意識理論と妄想・自我障害 第9回 教科書第7章 自己開示と自己呈示 第10回 教科書第8章 自己開示と心身の健康 第11回 教科書第9章 自己呈示と社会不安・対人恐怖 第12回 教科書第10章 援助行動とソーシャル・サポート 第13回 教科書第11章 攻撃行動と怒り・自己 第14回 教科書終章 これからの臨床社会心理学 第15回 グループワーク (「臨床社会心理学」 東京大学出版会 第10章)						
授業外における学習(準備学習の内容)	教科書の「コラム」の欄を読み、授業の復習をする。						
授業方法	教科書を輪読し、その後、各回の指定討論者を中心に議論し、最後に補足説明などをする。						
評価基準と評価方法	平常点100%						
教科書	坂本真士・佐藤健二(編) 「はじめての臨床社会心理学」2004 有斐閣						
参考書	1. 坂本真士・丹野義彦・安藤清志(編) 臨床社会心理学 (東京大学出版会) 2. R.M. コワルスキ, M.R. リアリー(編著) 安藤清志・丹野義彦(監訳) 臨床社会心理学の進歩 (北大路書房)						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	社会心理学特論II						
担当教員	土肥 伊都子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	最新の社会心理学の文献研究						
授業の概要	ここ数年に発表された、社会心理学の雑誌論文（「社会心理学研究」, 「Journal of Personality and Social Psychology」など）を読み、最新の社会心理学研究の動向を知る。						
到達目標	修士論文のテーマを決定するための、あるいは修士論文に引用するための資料、知見を得ること。						
授業計画	第1回 オリエンテーション, 発表割り当て 第2回 個人発表と討論 (1) 第3回 個人発表と討論 (2) 第4回 個人発表と討論 (3) 第5回 個人発表と討論 (4) 第6回 個人発表と討論 (5) 第7回 個人発表と討論 (6) 第8回 個人発表と討論 (7) 第9回 個人発表と討論 (8) 第10回 個人発表と討論 (9) 第11回 個人発表と討論 (10) 第12回 個人発表と討論 (11) 第13回 個人発表と討論 (12) 第14回 個人発表と討論 (13) 第15回 修士論文についての討論						
授業外における学習（準備学習の内容）	自分が関心を持つ社会心理学の領域について、様々な著書を読んで、理解を深めておく。						
授業方法	ゼミナール形式						
評価基準と評価方法	平常点100%						
教科書							
参考書							

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理学研究法特論						
担当教員	待田昌二・藤本浩一・土肥伊都子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜2	配当学年	1	単位数	4.0
授業のテーマ	心理学の研究方法の習得						
授業の概要	基礎系の心理学を中心に幅広い分野から研究例を紹介し、心理学での様々な研究方法について学ぶ。幅広い分野を扱うため3人の担当者によるオムニバス方式で行う。まず、心理学論文の読み方ガイドと発達障がいの査定や質的研究法に関する演習を行う。次いで、基礎心理学での質問紙による調査、行動観察による研究例を取り上げるとともに統計的分析の基礎と適用について学ぶ。最後に、社会心理学的研究法と分析方法を学ぶ。						
到達目標	心理学論文を読み発表できる。発達障がいの心理査定法や質的研究法の知識を得る。心理学研究に用いられる統計処理の違いを区別し、適切に運用できる。SPSSを用いて多変量解析を実施できる。						
授業計画	<p>【第1回～第5回 藤本担当】</p> <p>第1回 心理学論文の検索の仕方と読み方 第2回 論文紹介 第3回 発達障がいの心理査定の場合 第4回 質的研究（1）KJ法 第5回 質的研究（2）その他</p> <p>【第6回～第20回 待田担当】</p> <p>第6回 心理学と統計的分析 第7回 尺度と基礎統計量 第8回 統計的検定の考え方 第9回 平均値の差の検定 第10回 学術論文での平均値の差の検定の適用例 第11回 分散分析と多重比較 第12回 学術論文における分散分析 第13回 二要因分散分析の適用例 第14回 様々な相関係数 第15回 学術論文における相関係数 第16回 因子分析 第17回 因子分析の適用例 第18回 クロス集計とχ^2検定の適用例 第19回 行動観察論文におけるノンパラメトリック検定（1） 第20回 行動観察論文におけるノンパラメトリック検定（2）</p> <p>【第21回～第30回 土肥担当】</p> <p>第21回 オリエンテーション、心理尺度の信頼性と妥当性 第22回 論文購読（1） 第23回 論文購読（2） 第24回 論文購読（3） 第25回 SPSS（1） 入力、データの加工 第26回 SPSS（2） 単純集計、相関、グラフ 第27回 SPSS（3） クロス集計、複数回答データ、χ^2検定 第28回 SPSS（4） t検定、分散分析 第29回 SPSS（5） 因子分析 第30回 SPSS（6） 重回帰分析</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業内容を復習し理解を確実なものにしておく。指示された論文を読み、発表に備える						
授業方法	講義、演習を組み合わせた授業						
評価基準と評価方法	授業での発表、提出物など平常点50%、まとめの発表ないしはレポート50%						

教科書	使用しない
参考書	授業中に指示する

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理学特別研究						
担当教員	安達 圭一郎						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	4.0
授業のテーマ	修士論文を作成する。						
授業の概要	1年次に作成した研究計画書に従い、データの収集、データの分析、結果の考察を進めていく。同時並行で、必要な文献検索と熟読もおこなう。						
到達目標	修士論文を完成させ、公聴会で効果的なプレゼンテーションをおこなうことができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 研究計画の点検（1）：追加文献の検索と読み込み 第3回 研究計画の点検（2）：追加文献の検索と読み込み 第4回 データ収集の準備（1） 第5回 データ収集の準備（2） 第6回 データ収集の準備（3） 第7回 データ収集の状況確認（1） 第8回 データ収集の状況確認（2） 第9回 データ収集の状況確認（3） 第10回 データ収集の状況確認（4） 第11回 データ収集の状況確認（5） 第12回 データ収集の状況確認（6） 第13回 データ収集の状況確認（7） 第14回 データ収集の状況確認（8） 第15回 データの分析（1） 第16回 データの分析（2） 第17回 データの分析（3） 第18回 データの分析（4） 第19回 結果の読み取り（1） 第20回 結果の読み取り（2） 第21回 論文執筆：問題目的 第22回 論文執筆：問題目的 第23回 論文執筆：方法 第24回 論文執筆：方法 第25回 論文執筆：結果 第26回 論文執筆：結果 第27回 論文執筆：考察 第28回 論文執筆：考察 第29回 論文執筆：考察 第30回 論文執筆：全体的まとめと公聴会準備						
授業外における学習（準備学習の内容）	できるだけ多くの文献を読みこなしてほしい。						
授業方法	ゼミ形式と個別指導を併用する。						
評価基準と評価方法	取り組みの姿勢（20%）、修士論文の完成度（60%）、公聴会での発表内容、及び質疑応答（20%）						
教科書	特になし。						

参考書	適宜紹介する。
-----	---------

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理学特別研究						
担当教員	大和田 攝子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜6	配当学年	2	単位数	4.0
授業のテーマ	修士論文の作成						
授業の概要	自身が決定したテーマについて臨床心理学的な視点から検討し、修士論文としてまとめる。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画に基づき、調査や実験を実施することができる。 2. 得られたデータを分析し、修士論文としてまとめることができる。 3. 公聴会で修士論文の内容を分かりやすく発表することができる。 						
授業計画	第1回 研究計画の立案 (1) 第2回 研究計画の立案 (2) 第3回 研究計画の立案 (3) 第4回 研究計画の立案 (4) 第5回 研究の実施 (1) 第6回 研究の実施 (2) 第7回 研究の実施 (3) 第8回 研究の実施 (4) 第9回 研究の実施 (5) 第10回 研究の実施 (6) 第11回 結果の分析と統計的検定 (1) 第12回 結果の分析と統計的検定 (2) 第13回 結果の分析と統計的検定 (3) 第14回 結果の分析と統計的検定 (4) 第15回 結果の分析と統計的検定 (5) 第16回 結果の分析と統計的検定 (6) 第17回 修士論文の作成 (1) 第18回 修士論文の作成 (2) 第19回 修士論文の作成 (3) 第20回 修士論文の作成 (4) 第21回 修士論文の作成 (5) 第22回 修士論文の作成 (6) 第23回 修士論文の作成 (7) 第24回 修士論文の作成 (8) 第25回 論文の校正 (1) 第26回 論文の校正 (2) 第27回 論文の校正 (3) 第28回 公聴会での発表準備 (1) 第29回 公聴会での発表準備 (2) 第30回 公聴会での発表準備 (3)						
授業外における学習（準備学習の内容）	各自の研究テーマに沿って、主体的に研究を進めること。						
授業方法	演習形式による授業と個別指導						
評価基準と評価方法	研究に取り組む姿勢と修士論文、公聴会での発表に基づき、総合的に評価する。						
教科書							

参考書	授業中に紹介する。
-----	-----------

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理学特別研究						
担当教員	黒崎 優美						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜6	配当学年	2	単位数	4.0
授業のテーマ	修士論文作成に向けての研究						
授業の概要	<p>目的： 臨床心理学的テーマに関する実証的研究を通して、研究者として、また臨床家として必要な知識を習得し、それらの統合と確立を目指します。</p> <p>概要： 受講者の研究計画に基づき、相談の上設定した研究テーマについて、精神分析学、主にBionによる精神病理論や集団理論の観点から明らかにするための研究を行います。</p> <p>キー・ワード： 臨床心理学、対象関係論、精神分析学</p>						
到達目標	臨床心理学特別研究Bで行った分析結果を整理し、考察を加えて修士論文を完成させる。						
授業計画	<p>第1回 論文完成までの研究計画(1)</p> <p>第2回 論文完成までの研究計画(2)</p> <p>第3回 分析結果の整理と検討(1)</p> <p>第4回 分析結果の整理と検討(2)</p> <p>第5回 分析結果の整理と検討(3)</p> <p>第6回 分析結果の整理と検討(4)</p> <p>第7回 修士論文作成(問題・方法)(1)</p> <p>第8回 修士論文作成(問題・方法)(2)</p> <p>第9回 修士論文作成(問題・方法)(3)</p> <p>第10回 修士論文作成(問題・方法)(4)</p> <p>第11回 修士論文作成(問題・方法)(5)</p> <p>第12回 修士論文作成(問題・方法)(6)</p> <p>第13回 修士論文作成(結果・考察)(1)</p> <p>第14回 修士論文作成(結果・考察)(2)</p> <p>第15回 修士論文作成(結果・考察)(3)</p> <p>第16回 修士論文作成(結果・考察)(4)</p> <p>第17回 修士論文作成(結果・考察)(5)</p> <p>第18回 修士論文作成(結果・考察)(6)</p> <p>第19回 修士論文作成(まとめ・要旨)(1)</p> <p>第20回 修士論文作成(まとめ・要旨)(2)</p> <p>第21回 修士論文作成(まとめ・要旨)(3)</p> <p>第22回 修士論文作成(まとめ・要旨)(4)</p> <p>第23回 修士論文作成(まとめ・要旨)(5)</p> <p>第24回 修士論文作成(まとめ・要旨)(6)</p> <p>第25回 発表資料作成(1)</p> <p>第26回 発表資料作成(2)</p> <p>第27回 発表資料作成(3)</p> <p>第28回 発表資料作成(4)</p> <p>第29回 今後の研究の進め方について(1)</p> <p>第30回 今後の研究の進め方について(2)</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	基本的な活動は授業外に行い、授業では進捗状況の確認や修正を行います。精神分析、対象関係論、そして研究テーマに関する文献購読を積極的に行ってください。						
授業方法	個別指導、もしくは少人数でのゼミ形式						
評価基準と評価方法	研究への意欲や成果物の内容から総合的に評価します。						
教科書	なし						
参考書	適宜紹介します。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理学特別研究						
担当教員	榊原 久直						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜6	配当学年	2	単位数	4.0
授業のテーマ	修士論文を作成する。						
授業の概要	1年次に作成した研究計画書に沿ってデータの収集・分析を行い、結果の考察を進めて論文の作成を行う。同時に文献検討を行い、考察を深めていく。						
到達目標	1. 修士論文を完成させる。 2. 自分の研究の位置づけやオリジナリティ、今後の展望を要約して説明できる。 3. 自分の研究をわかりやすく説明・発表することができる。						
授業計画	第1回：研究計画の立案（1） 第2回：研究計画の立案（2） 第3回：研究計画の立案（3） 第4回：研究計画の立案（4） 第5回：研究の実施（1） 第6回：研究の実施（2） 第7回：研究の実施（3） 第8回：研究の実施（4） 第9回：研究の実施（5） 第10回：研究の実施（6） 第11回：データ収集の状況確認（1） 第12回：データ収集の状況確認（2） 第13回：データ収集の状況確認（3） 第14回：データ収集の状況確認（4） 第15回：データ収集の状況確認（5） 第16回：結果の分析（1） 第17回：結果の分析（2） 第18回：結果の分析（3） 第19回：結果の分析（4） 第20回：結果の分析（5） 第21回：論文執筆：問題と目的（1） 第22回：論文執筆：問題と目的（2） 第23回：論文執筆：方法（1） 第24回：論文執筆：方法（2） 第25回：論文執筆：結果（1） 第26回：論文執筆：結果（2） 第27回：論文執筆：考察（1） 第28回：論文執筆：考察（2） 第29回：論文執筆：全体のまとめと公聴会準備（1） 第30回：論文執筆：全体のまとめと公聴会準備（2）						
授業外における学習（準備学習の内容）	出来るだけ多くの文献を読むと共に、多くの者とディスカッションを重ねながら自分の研究について多面的に考える機会を持つように心がけることを推奨する。						
授業方法	ゼミ形式を主とするが、適宜個別の指導を併用する。						
評価基準と評価方法	ゼミ活動への参加度・貢献度（20％）／修士論文の完成度（60％）／公聴会での発表内容・質疑応答（20％）						
教科書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。						
参考書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理学特別研究						
担当教員	坂本 真佐哉						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	4.0
授業のテーマ	家族療法やブリーフセラピーの理論と実際を学び、実践する。家族療法やブリーフセラピーの領域に関するテーマを選んで研究し、修士論文としてまとめる。						
授業の概要	文献や事例研究、ロールプレイなどを通して、さまざまな臨床現場における心理援助的コミュニケーションについて学ぶ。具体的には、家族療法やブリーフセラピーの分野における援助の理論や方法論、研究方法について理解を深める。学びの成果を修士論文としてまとめることとする。						
到達目標	1. 研究計画にもとづいて調査や実験を実施できる。 2. 結果をまとめ、修士論文を執筆して発表し、質疑応答に対応することができる。						
授業計画	第1回 文献レビュー発表および事例研究 (1) 第2回 文献レビュー発表および事例研究 (2) 第3回 文献レビュー発表および事例研究 (3) 第4回 文献レビュー発表および事例研究 (4) 第5回 文献レビュー発表および事例研究 (5) 第6回 文献レビュー発表および事例研究 (6) 第7回 文献レビュー発表および事例研究 (7) 第8回 文献レビュー発表および事例研究 (8) 第9回 文献レビュー発表および事例研究 (9) 第10回 文献レビュー発表および事例研究 (10) 第11回 文献レビュー発表および事例研究 (11) 第12回 文献レビュー発表および事例研究 (12) 第13回 文献レビュー発表および事例研究 (13) 第14回 文献レビュー発表および事例研究 (14) 第15回 文献レビュー発表および事例研究 (15) 第16回 データの解析と論文指導 (1) 第17回 データの解析と論文指導 (2) 第18回 データの解析と論文指導 (3) 第19回 データの解析と論文指導 (4) 第20回 データの解析と論文指導 (5) 第21回 データの解析と論文指導 (6) 第22回 データの解析と論文指導 (7) 第23回 データの解析と論文指導 (8) 第24回 データの解析と論文指導 (9) 第25回 データの解析と論文指導 (10) 第26回 データの解析と論文指導 (11) 第27回 データの解析と論文指導 (12) 第28回 修士論文発表準備指導 (1) 第29回 修士論文発表準備指導 (2) 第30回 修士論文発表準備指導 (3)						
授業外における学習（準備学習の内容）	先行研究を検索し、レビューする。						
授業方法	1. 研究計画に関する討論 2. 調査もしくは実験の実施 3. 論文指導						
評価基準と評価方法	学びの姿勢や態度、臨床技術の習熟度と理解度、発表や発言の内容、修士論文の内容などによって総合的に判断する。						
教科書	なし						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理学特別研究						
担当教員	中村 博文						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜6	配当学年	2	単位数	4.0
授業のテーマ	修士論文研究						
授業の概要	自身が決定したテーマについて研究し、修士論文としてまとめる。						
到達目標	自身が決定したテーマについて、適切な方法で研究を進めることができる。 形式に則った修士論文を作成できる。 公聴会において修士論文研究の発表を行い、質疑応答を行うことができる。						
授業計画	#01：研究テーマに関する文献レビュー (1) #02：研究テーマに関する文献レビュー (2) #03：研究テーマに関する文献レビュー (3) #04：研究テーマに関する文献レビュー (4) #05：研究テーマに関する文献レビュー (5) #06：研究テーマに関する文献レビュー (6) #07：研究テーマに関する文献レビュー (7) #08：研究計画の検討 (1) #09：研究計画の検討 (2) #10：研究計画の検討 (3) #11：研究計画の検討 (4) #12：研究計画の検討 (5) #13：研究計画の検討 (6) #14：研究計画の検討 (7) #15：研究計画の検討 (8) #16：研究結果の整理と分析 (1) #17：研究結果の整理と分析 (2) #18：研究結果の整理と分析 (3) #19：研究結果の整理と分析 (4) #20：研究結果の整理と分析 (5) #21：研究結果の整理と分析 (6) #22：研究結果の整理と分析 (7) #23：研究結果の整理と分析 (8) #24：研究結果の整理と分析 (9) #25：修士論文の作成 (1) #26：修士論文の作成 (2) #27：修士論文の作成 (3) #28：修士論文の作成 (4) #29：公聴会資料の作成 (1) #30：公聴会資料の作成 (2)						
授業外における学習（準備学習の内容）	各自の研究テーマに沿って、研究を進めること。						
授業方法	演習形式。 研究の進行に沿って、経過報告を行う。						
評価基準と評価方法	研究へのコミットの程度（20%）、および作成された修士論文（60%）、公聴会での発表と質疑応答（20%）に基づいて、総合的に評価する。						
教科書	指定しない。						

参考書	適時紹介する。
-----	---------

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	精神医学特論						
担当教員	若栄 徳彦						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学における臨床精神医学						
授業の概要	臨床心理士が修得すべき精神医学「精神医学」という分野が網羅する事項は膨大であるが、この授業では、可能な限り心理臨床家にとって役立つかたちで、精神医学的な見方を学習する。						
到達目標	臨床心理士にとって必要なミニマム・リクワイヤメントの理解						
授業計画	第1回 精神症状学 第2回 神経心理学 第3回 睡眠と脳波 第4回 症状性を含む器質性障害 第5回 てんかん 第6回 物質関連障害 第7回 内因性精神障害（統合失調症とその近縁疾患） 第8回 内因性精神障害（気分障害） 第9回 神経性障害 第10回 パーソナリティ障害 第11回 生理的障害および身体的要因に関連した障害（1） 第12回 生理的障害および身体的要因に関連した障害（2） 第13回 小児期・青年期の精神障害（1） 第14回 小児期・青年期の精神障害（2） 第15回 精神医学と社会						
授業外における学習（準備学習の内容）	実習を通じて精神医学臨床の理解を深めること。						
授業方法	主として講義形式、テーマにより発表や討論も行なう。						
評価基準と評価方法	授業への参加態度、発表、レポートなど総合的に評価する。 レポート(1回)50%、講義中の応答・態度(50%)						
教科書	教材はプリントを配布する。						
参考書	必要に応じて、適宜、授業中に紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	認知行動療法特論／行動療法特論						
担当教員	巢黒 慎太郎						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	認知行動療法の理論と実践						
授業の概要	効果の実証されている心理療法のひとつである認知行動療法 (Cognitive Behavior therapy; CBT) について、その基盤となる行動科学・認知病理学の諸理論や効果研究をふまえながら、「実証に基づく実践」の理念を学ぶ。またデモ面接映像や多くの臨床事例を題材しながら、臨床実践における具体的な介入技法とそれらを用いる際の工夫・配慮を学ぶ。また、いくつかの技法は体験的に演習も行う。臨床場面でクライアントが行うのと同様に、受講生自身も自己観察記録やRelaxation練習、行動や認知の変容などのホームワークに取り組み、その成果や達成度を報告、検討する。						
到達目標	認知行動論的な事例理解の視点と面接の進め方を学び、援助介入技法の基礎を習得する。						
授業計画	第1回 オリエンテーション、実証に基づく臨床心理学的援助の理念 第2回 学習理論と認知病理研究の臨床的展開 第3回 CBTセッションの特徴、治療援助関係性 第4回 アセスメントとケースフォーミュレーション、行動の理解：機能分析 第5回 行動的技法 (1) 症状・問題への対処、リラクゼーションスキル 第6回 行動的技法 (2) 不安障害ケースへの適用 第7回 行動的技法 (3) コミュニケーションスキルの向上 第8回 認知的技法 (1) 認知モデル 第9回 認知的技法 (2) 考え方の癖に気づき、考えの幅を広げる 第10回 認知的技法 (3) 自動思考の検討、その他の認知的技法 第11回 認知的技法 (4) スキーマへの介入、スキーマ療法 第12回 新世代の認知行動療法 (1) 対象領域の広がり 第13回 新世代の認知行動療法 (2) 対象特異的アプローチと統合的アプローチ 第14回 新世代の認知行動療法 (3) マインドフルネス・スキルを中心に 第15回 質疑応答とまとめ						
授業外における学習 (準備学習の内容)	事後学習：講義で学んだ内容に関連する文献を読み理解を深める。また、知識理解に留まらず、講義中提示されたホームワークを実施することで体験的理解に努める。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点 (授業への参加状況 (発言、ディスカッション等)、平常課題) 50% 定期レポート 50%						
教科書	使用しない。適宜資料を配布する。						
参考書	『行動変容法入門』 レイモンド・G・ミンテルバーガー著 二瓶社 ISBN978-4-86108-025-8 『不安障害の臨床心理学』 坂野雄二・丹野義彦・杉浦義典 編 東京大学出版会 4-13-011120-5 『抑うつ臨床心理学』 坂本真士・丹野義彦・大野裕 編 東京大学出版会 4-13-011118-3 『認知療法実践ガイド基礎から応用まで—ジュディス・ベックの認知療法テキスト』 ジュディス・S・ベック著 星和書店 4-7911-0546-X 『うつを克服する10のステップ—セラピスト・マニュアルうつ病の認知行動療法』 ゲアリィ・エメリィ著 金剛出版 978-47724-11448 『統合的方法としての認知療法』 東齊彰 編著 岩崎学術出版社 978-4-7533-1053-1 『スキーマ療法 パーソナリティの問題に対する統合的認知行動療法アプローチ』 ジェフリー・E・ヤングほか著 金剛出版 978-4-7724-1046-5 『心理療法の諸システム 第6版』 ジェームズ・O・プロチャスカ、ジョン・C・ノークロス著 金子書房 978-4						

参考書	-7608-2630-8
-----	--------------

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	認知発達心理学特論I／認知心理学特論I						
担当教員	久津木 文						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	言語が与える認知への影響						
授業の概要	子どもの言語と認知の発達についての基礎的な文献をまとめた教科書を講読し、実験・調査についての理解を深める。						
到達目標	子どもの言語と認知の発達についての基礎的な知識を修得し、実験・調査についての手法を知ることができる。先行研究の流れをつかむことは最新の研究を理解するのに役立つ。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 初期のカテゴリ表象と概念 1 第3回 初期のカテゴリ表象と概念 2 第4回 初期の語彙 1 第5回 初期の語彙 2 第6回 脳と認知の発達 1 第7回 脳と認知の発達 2 第8回 子どもの文法発達の理解 1 第9回 子どもの文法発達の理解 2 第10回 小児期における実行機能 1 第11回 小児期における実行機能 2 第12回 心の理解 1 第13回 心の理解 2 第14回 興味の文献の発表 1 第15回 興味の文献の発表 2						
授業外における学習（準備学習の内容）	メインに扱うテキストのみならず、関連する引用文献、または最新の文献にも興味をあげ読んでほしい。						
授業方法	ゼミナール方式、文献講読・発表						
評価基準と評価方法	発表 60% 授業への取組 40%						
教科書	子どもの認知と言語はどう発達するのか by ジョン・オーツ、アンドルー・グレイソン（編）（松伯社）						
参考書							

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	認知発達心理学特論II／認知心理学特論II						
担当教員	久津木 文						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	言語が与える認知への影響						
授業の概要	子どもの言語と認知の発達についての基礎的な文献をまとめた教科書を講読し、実験・調査についての理解を深める。						
到達目標	子どもの言語と認知の発達についての基礎的な知識を修得し、実験・調査についての手法を知ることができる。先行研究の流れをつかむことは最新の研究を理解するのに役立つ。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 初期のカテゴリ表象と概念 1 第3回 初期のカテゴリ表象と概念 2 第4回 初期の語彙 1 第5回 初期の語彙 2 第6回 脳と認知の発達 1 第7回 脳と認知の発達 2 第8回 子どもの文法発達の理解 1 第9回 子どもの文法発達の理解 2 第10回 小児期における実行機能 1 第11回 小児期における実行機能 2 第12回 心の理解 1 第13回 心の理解 2 第14回 興味の文献の発表 1 第15回 興味の文献の発表 2						
授業外における学習（準備学習の内容）	メインに扱うテキストのみならず、関連する引用文献、または最新の文献にも興味をあげ読んでほしい。						
授業方法	ゼミナール方式、文献講読・発表						
評価基準と評価方法	発表 60% 授業への取組 40%						
教科書	子どもの認知と言語はどう発達するのか by ジョン・オーツ、アンドルー・グレイソン（編）（松伯社）						
参考書							

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	発達心理学特殊研究I／発達心理学特殊研究						
担当教員	寺見 陽子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	育児ストレスとストレスコーピング						
授業の概要	少子化・核家族化が進行した今日、親の育児不安や虐待、子どもの育ちのアンバランスさが問題となっている。本講義では、親の育児ストレス、ストレスコーピング、子育てに対するソーシャルサポートに関する研究の動向と課題を明らかにし、親子のアイデンティティ形成の視点から、発達臨床的支援のあり方について考える。						
到達目標	育児ストレスの背景、保護者の心理、親子関係、子育て支援のありかたについて学ぶ。						
授業計画	第1回 現代社会と子育て・子育て 第2回 子育て・子育てに関する発達の諸理論 第3回 乳幼児期の親子関係 第4回 親の養育性と親子関係の発達 第5回 育児ストレスの構造と規定要因 第6回 ストレスコーピングとソーシャルサポート（1） 第7回 ストレスコーピングとソーシャルサポート（2） 第8回 ケース・スタディ（1） 第9回 ケース・スタディ（2） 第10回 ケース・スタディ（3） 第11回 支援の計画と実際（1）－課題とニーズの明確化 第12回 支援の計画と実際（2）－カウンセリングと心理療法 第13回 支援の計画と実際（3）－ケース・ワーク 第14回 支援の計画と実際（4）－専門機関と地域ネットワーク 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	子育て支援現場の見学						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	小レポート・プレゼンテーション50点 レポート50点						
教科書	寺見陽子 子育て・子育て支援学 保育出版 2011						
参考書	藤崎真知代ほか 育児・保育の現場での発達と支援 ミネルバ書房 2003 藤崎真知代・大日向雅美編著 育児のなかでの臨床発達支援 ミネルバ書房 2011						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	発達心理学特殊研究II						
担当教員	藤本 浩一						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	発達のアンバランスの理解と支援						
授業の概要	近年の教育・保育現場で注目されている発達アンバランス（発達障害）について正しい理解を持ち、適切な支援策を講じることができるよう知識基盤を得ることを目的とする。LD、ADHD、自閉症スペクトラム、知的遅滞などについて概説し、発達障害児の特性を十分知った上で、学校や日常生活場面での彼らに対する適切な教育・訓練や対応の仕方を学ぶ。障害を持つ人が社会で誇りと満足を持って生きていくにはどうすればいいかを考えるきっかけとしたい。グループに分かれて論文講読・発表を行うことがある。						
到達目標	発達アンバランスについての知識を得て、各種の障害を区別できる。将来の職場でスムーズに対処できるように支援の方法を説明できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. LD 特徴、ワーキングメモリー 2. LD 事例、支援 3. ADHD 特徴、査定 4. ADHD 事例、支援、大人のADHD 5. ASD/PDD 特徴、原因 6. ASD/PDD 事例、訓練 7. ASD/PDD 支援の取り組み 8. 心理査定、支援の事例 9. ダウン症 特徴 10. 認知訓練の実際 中間テスト 11. 論文講読① 「今日の学び1」 12. 論文講読② 「今日の学び2」 13. 論文講読③ 「今日の学び3」 14. 論文講読④ 「今日の学び4」 15. 論文講読⑤ 「今日の学び5」 						
授業外における学習（準備学習の内容）	文献検索、発表要旨作成等の準備、レポート課題						
授業方法	講義、視聴覚教材、討論、論文講読と発表						
評価基準と評価方法	中間テストにて発達障害に関する知識を問う（30%）。他に、発表のわかりやすさ・本人理解（30%）、筆記試験（40%）などにより総合的に評価を行う。						
教科書	プリント教材を配ります。						
参考書							

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	発達心理学特論I						
担当教員	久津木 文						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	発達心理学（乳幼児期）についての演習						
授業の概要	乳幼児期におけるさまざまな能力の発達について、主に、心の理論や社会性の発達についての代表的な実験論文を読む。 学部レベルでの発達心理学の授業をすでに受講済みであることが望ましいが、その限りではない。簡単な概論書（例：「乳幼児の心理」（サイエンス社）、「子どもの発達心理学を学ぶ人のために」（世界思想社））などを読んでおくとい良いでしょう。						
到達目標	発達心理学における専門的文献を読めるようになる。 専門分野における論文の書き方や理論を獲得できる。						
授業計画	第1回 導入・発表担当割り当て 第2回 自己認知 (1) 第3回 自己認知 (2) 第4回 共同注意 (1) 第5回 共同注意 (2) 第6回 心の理論 (1) 第7回 心の理論 (2) 第8回 感情理解と表出 (1) 第9回 感情理解と表出 (2) 第10回 向社会的行動 (1) 第11回 向社会的行動 (2) 第12回 向社会的行動 (3) 第13回 個人の興味の発表 (1) 第14回 個人の興味の発表 (2) 第15回 個人の興味の発表 (3)						
授業外における学習（準備学習の内容）	興味のある文献を読み進めておく。						
授業方法	発表、論文講読、ディスカッション						
評価基準と評価方法	論文についての発表&ディスカッション（60%） 最終レポート（40%）						
教科書	指定しない						
参考書	原著で学ぶ社会性の発達 ナカニシヤ出版						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	発達心理学特論II						
担当教員	久津木 文						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	発達心理学についての演習						
授業の概要	発達心理学特論Iで読んだ文献をもとにした比較的新しい論文やそれがもとになった原著を読むことで学術論文の探し方や理解のしかたを学ぶのが目的である。個別に気になる・興味のあるテーマに沿って、古い文献から新しい文献を探り、めぼしいものを講読し、その内容を理解して発表をする。最終的には、自分が興味をもったテーマについてすでに何がわかっており、最新動向はなにかについて一貫性をもってまとめられるようになることを目指す。						
到達目標	発達心理学における専門的文献を読めるようになる。 専門分野における論文の書き方や理論を習得する。						
授業計画	第1回 導入・発表担当割り当て 第2回 文献講読（先行研究）・発表（1） 第3回 文献講読（先行研究）・発表（2） 第4回 文献講読（先行研究）・発表（3） 第5回 英論文講読（先行研究）（1） 第6回 英論文講読（先行研究）（2） 第7回 英論文講読（先行研究）（3） 第8回 英論文講読（先行研究）（4） 第9回 英論文講読（最新研究）（1） 第10回 英論文講読（最新研究）（2） 第11回 英論文講読（最新研究）（3） 第12回 英論文講読（最新研究）（4） 第13回 個人の興味の発表（1） 第14回 個人の興味の発表（2） 第15回 個人の興味の発表（3）						
授業外における学習（準備学習の内容）	興味のある文献を読み進めておく。						
授業方法	発表、論文講読、ディスカッション						
評価基準と評価方法	論文についての発表&ディスカッション 60% 最終レポート 40%						
教科書	指定しない						
参考書							

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	比較行動学特論I						
担当教員	待田 昌二						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	進化論の理解と人間を進化論的に考える視点の取得						
授業の概要	比較行動学 (Ethology) は動物の行動を研究する学問分野である。生物学にルーツを持つ学問であり、進化論的視点で行動を分析する点に特徴がある。早くから心理学と交流あるいは反発しながら、心理学に多大な影響を与えてきた。本講義ではEthologyの根幹であるダーウィンの進化論から出発し、行動の進化や行動の遺伝子といった言葉の正確な理解、ヒトや動物の行動を進化論的視点から考えることの意味を、具体的な行動を取り上げながら考えていく。						
到達目標	進化論を理解し、人間を進化論的視点から理解できるようになる						
授業計画	第1回 人間の本性の探求 第2回 進化の概念 第3回 遺伝子と行動1 第4回 遺伝子と行動2 第5回 「利己的遺伝子」と「種の保存」 第6回 ヒトの進化 (1) 第7回 ヒトの進化 (2) 第8回 血縁淘汰と家族の絆 第9回 血縁者間の葛藤 第10回 協力行動の進化 第11回 雄と雌の葛藤—性淘汰の理論と証拠 第12回 ヒトの繁殖と配偶システム 第13回 ヒトの配偶者選択・配偶者防衛 第14回 再び遺伝と環境、学習、文化 第15回 まとめとディスカッション						
授業外における学習 (準備学習の内容)	事前に教科書の該当部分を読み終えておくことが必要						
授業方法	講義、発表、討論						
評価基準と評価方法	授業での発表、提出物など平常点50%、期末レポート50%						
教科書	『進化と人間行動』長谷川寿一・長谷川真理子 (東京大学出版会) ISBN 4130120328						
参考書	Web上で紹介している。「神戸松蔭心理学のページ」で検索するか、松蔭CampusLinkから、「心理学のページ」→「参考図書紹介(待田)」→「人類の進化」						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	比較行動学特論II						
担当教員	待田 昌二						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	進化論的視点から見た人間の感情と欲求						
授業の概要	比較行動学(Ethology)と同様の視点から人間の心理・行動を研究する分野として進化心理学が発展しつつある。現在では、人間行動の起源の理解においてはもちろんのこと、現代の生活環境への不適応といった問題の理解においても重要な学問分野と見なされている。しかし、進化論に対する誤解や進化論的視点の安易な適用による研究もあり、反発も大きい。人間の心理、特に、感情や欲求というシステムを進化論的視点から読みなおし、もともと適応的であったシステムが現代生活において不適応を引き起こすメカニズムについて、いくつかの文献を読みながら学び考えていく。						
到達目標	人の心理を進化論的視点から考えられるようになること						
授業計画	第1回 ローレンツの思想：「本能」とその機能錯誤 第2回 欲求・感情という概念 第3回 欲求・感情の問題点 第4回 感情は心理学においてどのように捉えられているか 第5回 感情の進化論的理解 (1) 第6回 感情の進化論的理解 (2) 第7回 感情の進化論的理解についてディスカッション 第8回 欲求は心理学においてどのように捉えられているか (1) 第9回 欲求は心理学においてどのように捉えられているか (2) 第10回 欲求の進化論的理解 (1) 第11回 欲求の進化論的理解 (2) 第12回 欲求の進化論的理解 (3) 第13回 欲求の進化論的理解についてディスカッション 第14回 現代社会という環境と進化心理学 第15回 まとめのディスカッション						
授業外における学習(準備学習の内容)	事前配布資料を必ず読んでおくこと						
授業方法	講義、発表、討論						
評価基準と評価方法	授業での発表、提出物など平常点50%、期末レポート50%						
教科書	使用しない						
参考書	授業において指示する						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究A						
担当教員	安達 圭一郎						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文の作成を視野に入れながら、文献の抄読、テーマ設定、文献レビューをおこなう。						
授業の概要	毎週2名の割合で、関心のあるテーマに沿った文献（和・洋は問わないが、できるだけ洋）を用意し、まとめと報告をおこなう。その後、自己のテーマ設定と文献レビューに挑む。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・心理学関連の専門雑誌から関心のある論文を検索し、まとめて発表することができる。 ・発表論文をもとにディスカッションができる。 ・修士論文のテーマを設定し、先行研究のレビューができる。 						
授業計画	第1回 オリエンテーション 自己紹介、順番決め 第2回 文献発表とディスカッション (1) 第3回 文献発表とディスカッション (2) 第4回 文献発表とディスカッション (3) 第5回 文献発表とディスカッション (4) 第6回 文献発表とディスカッション (5) 第7回 文献発表とディスカッション (6) 第8回 文献発表とディスカッション (7) 第9回 文献発表とディスカッション (8) 第10回 文献発表とディスカッション (9) 第11回 文献発表とディスカッション (10) 第12回 テーマ設定と文献の検索 第13回 テーマに沿った文献の発表とディスカッション (1) 第14回 テーマに沿った文献の発表とディスカッション (2) 第15回 文献レビューにとりかかる。						
授業外における学習（準備学習の内容）	積極的に論文を検索し、読みこなしてほしい。						
授業方法	ゼミナール方式						
評価基準と評価方法	参加態度（発表内容、質疑応答の適切さ、参加意欲）で評価する。						
教科書							
参考書	適宜紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究A						
担当教員	大和田 攝子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文のテーマの決定						
授業の概要	喪失やトラウマおよびその関連領域における各自の研究テーマについて、文献研究を通して理解を深める。最終的には、各自の興味に沿って修士論文のテーマを絞り込むことを目的とする。						
到達目標	1. 喪失やトラウマおよびその関連領域における各自の研究テーマと関連のある文献を読み、要点をまとめて整理することができる。 2. 修士論文のテーマを絞り込むことができる。						
授業計画	第1回 各自のテーマと関連のある論文を講読し理解を深める (1) 第2回 各自のテーマと関連のある論文を講読し理解を深める (2) 第3回 各自のテーマと関連のある論文を講読し理解を深める (3) 第4回 各自のテーマと関連のある論文を講読し理解を深める (4) 第5回 各自のテーマと関連のある論文を講読し理解を深める (5) 第6回 各自のテーマと関連のある論文を講読し理解を深める (6) 第7回 各自のテーマと関連のある論文を講読し理解を深める (7) 第8回 各自のテーマと関連のある論文を講読し理解を深める (8) 第9回 各自のテーマと関連のある論文を講読し理解を深める (9) 第10回 各自のテーマと関連のある論文を講読し理解を深める (10) 第11回 各自のテーマと関連のある論文を講読し理解を深める (11) 第12回 各自のテーマと関連のある論文を講読し理解を深める (12) 第13回 文献研究をもとに研究テーマを絞り込む (1) 第14回 文献研究をもとに研究テーマを絞り込む (2) 第15回 文献研究をもとに研究テーマを絞り込む (3)						
授業外における学習（準備学習の内容）	各自の研究テーマと関連のある文献を熟読し、レジユメを作成すること。						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	授業への参加度と発表により総合的に評価する。						
教科書							
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究A						
担当教員	黒崎 優美						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文作成に向けての研究						
授業の概要	<p>目的： 臨床心理学的テーマに関する実証的研究を通して、研究者として、また臨床家として必要な知識を習得し、それらの統合と確立を目指します。</p> <p>概要： 受講者の研究計画に基づき、相談の上設定した研究テーマについて、精神分析学、主にBionによる精神病理論や集団理論の観点から明らかにするための研究を行います。</p> <p>キー・ワード： 臨床心理学、対象関係論、精神分析学</p>						
到達目標	<p>精神分析・対象関係論に関する文献購読、および、興味のある領域の文献研究を行い、それらの内容を整理し説明することができる。</p> <p>それらのなかから、修士論文の研究テーマと目的を明確にし、仮説モデルを作成することができる。</p>						
授業計画	<p>第1回 導入（実証的研究の進め方）</p> <p>第2回 文献研究（研究計画に即したテーマに関する先行研究）(1)</p> <p>第3回 文献研究（研究計画に即したテーマに関する先行研究）(2)</p> <p>第4回 文献研究（研究計画に即したテーマに関する先行研究）(3)</p> <p>第5回 文献研究（Bionの理論と臨床）(1)</p> <p>第6回 文献研究（Bionの理論と臨床）(2)</p> <p>第7回 文献研究（Bionの理論と臨床）(3)</p> <p>第8回 研究テーマの明確化（1）</p> <p>第9回 研究テーマの明確化（2）</p> <p>第10回 研究テーマの明確化（3）</p> <p>第11回 仮説モデルの作成（1）</p> <p>第12回 仮説モデルの作成（2）</p> <p>第13回 仮説モデルの作成（3）</p> <p>第14回 今後の研究の進め方について（1）</p> <p>第15回 今後の研究の進め方について（2）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>基本的な活動は授業外に行い、授業では進捗状況の確認や修正を行います。</p> <p>精神分析、対象関係論、そして研究テーマに関する文献購読を積極的に行ってください。</p>						
授業方法	個別指導、もしくは少人数でのゼミ形式						
評価基準と評価方法	ゼミ活動への参加・貢献度：50%、発表・提出物：50%						
教科書	なし						
参考書	メッド・ハフシ（2003）『ピオンへの道標』ナカニシヤ出版						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究A						
担当教員	榊原 久直						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文作成に向けて、論文の作成法を学ぶと共に自身の研究テーマを探索する。						
授業の概要	主として子どもや子育て、親支援、障害（がい）に関連した臨床心理学領域における学術論文の形式や読み方について理解を深め、修士論文の研究に向けてテーマを探す。						
到達目標	1. 臨床心理学の研究論文を読み解き、発表することができる。 2. 修士論文のテーマを選定することができる。 3. 修士論文のテーマに関連した課題性を提示することができる。						
授業計画	第1回：オリエンテーション 自己紹介と発表の割り当て 第2回：文献を基にした発表とディスカッション（1） 第3回：文献を基にした発表とディスカッション（2） 第4回：文献を基にした発表とディスカッション（3） 第5回：文献を基にした発表とディスカッション（4） 第6回：文献を基にした発表とディスカッション（5） 第7回：文献を基にした発表とディスカッション（6） 第8回：文献を基にした発表とディスカッション（7） 第9回：文献を基にした発表とディスカッション（8） 第10回：文献を基にした発表とディスカッション（9） 第11回：文献を基にした発表とディスカッション（10） 第12回：研究テーマの設定と課題性の検討（1） 第13回：研究テーマの設定と課題性の検討（2） 第14回：研究テーマの設定と課題性の検討（3） 第15回：授業の総括と夏休みの課題について						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業は学生の発表がメインである。毎回もしくは隔週で発表の順番が回ってくるので、修士論文につながる国内外の文献や調査を自ら調べて、理解してまとめることが必要である。また興味を持った領域の本を読み進めていくことを推奨する。						
授業方法	ゼミ形式。						
評価基準と評価方法	ゼミ活動への参加・貢献度：50%/発表・提出物（50%）						
教科書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。						
参考書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究A						
担当教員	坂本 真佐哉						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学研究の基礎について学ぶ。また、心理援助の基本について学ぶとともに、家族療法（システムズアプローチ）やブリーフセラピーの基礎理論について学ぶ。						
授業の概要	家族療法やブリーフセラピーの領域に関する理論的枠組みや技法について、文献やロールプレイを通して学ぶ。また、この領域における研究について概観し、自らの研究テーマを模索する。						
到達目標	1. 家族療法（システムズアプローチ）やブリーフセラピーの理論や技法について説明できる。 2. 関心の領域についての臨床心理学の理論について説明でき、研究計画を立てるために必要な文献を読み、発表することができる。						
授業計画	第1回 授業のすすめ方（ガイダンス） 第2回 臨床心理学における研究方法について 第3回 臨床心理学研究の実際（発表とディスカッション）（1） 第4回 臨床心理学研究の実際（発表とディスカッション）（2） 第5回 臨床心理学研究の実際（発表とディスカッション）（3） 第6回 臨床心理学研究の実際（発表とディスカッション）（4） 第7回 臨床心理学研究の実際（発表とディスカッション）（5） 第8回 臨床心理学研究の実際（発表とディスカッション）（6） 第9回 臨床心理学研究の実際（発表とディスカッション）（7） 第10回 臨床心理学研究の実際（発表とディスカッション）（8） 第11回 臨床心理学研究の実際（発表とディスカッション）（9） 第12回 臨床心理学研究の実際（発表とディスカッション）（10） 第13回 臨床心理学研究の実際（発表とディスカッション）（11） 第14回 臨床心理学研究の実際（発表とディスカッション）（12） 第15回 臨床心理学研究の実際（発表とディスカッション）（13）						
授業外における学習（準備学習の内容）	家族療法（システムズアプローチ）やブリーフセラピーの専門書、論文などを熟読すること						
授業方法	講義、文献研究、グループディスカッション、ロールプレイ						
評価基準と評価方法	学びの姿勢や態度、臨床技術の習熟度と理解度、発表や発言の内容などによって総合的に判断する						
教科書	なし						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究A						
担当教員	中村 博文						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文研究テーマの模索						
授業の概要	様々な事象について、それを臨床心理学的な視点からどのように把握するかを学ぶ。また、修士論文研究のテーマを模索する。						
到達目標	関心のある心理学的現象に関わる先行研究を取り上げ、発表することができる。 修士論文研究の、おおよその方向性を決められる。						
授業計画	#01：関心のある領域についての文献レビューと討論(1) #02：関心のある領域についての文献レビューと討論(2) #03：関心のある領域についての文献レビューと討論(3) #04：関心のある領域についての文献レビューと討論(4) #05：関心のある領域についての文献レビューと討論(5) #06：関心のある領域についての文献レビューと討論(6) #07：関心のある領域についての文献レビューと討論(7) #08：関心のある領域についての文献レビューと討論(8) #09：関心のある領域についての文献レビューと討論(9) #10：関心のある領域についての文献レビューと討論(10) #11：関心のある領域についての文献レビューと討論(11) #12：関心のある領域についての文献レビューと討論(12) #13：関心のある領域についての文献レビューと討論(13) #14：関心のある領域についての文献レビューと討論(14) #15：関心のある領域についての文献レビューと討論(15)						
授業外における学習(準備学習の内容)	それぞれ関心がある領域についての文献を検索し、発表資料としてまとめること。						
授業方法	演習形式。 授業では、文献レビューの発表と、それに基づく討論を行う。						
評価基準と評価方法	授業での発表(40%)、および討論への参加の程度(60%)により評価する。						
教科書	指定しない。						
参考書	適時紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目																																																			
科目名	臨床心理学特別研究B																																																			
担当教員	安達 圭一郎																																																			
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0																																													
授業のテーマ	修士論文のための文献レビューをすませ、研究計画書を作成する。																																																			
授業の概要	臨床心理学特別研究Aで着手した文献レビューを完成させ、問題・目的、方法、結果の分析法をまとめた研究計画書の作成をおこなう。																																																			
到達目標	修士論文にむけた研究計画書を作成できる。																																																			
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション</td> <td>進度の確認</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>文献レビューの作成 (1)</td> <td>追加論文の発表とディスカッション (1)</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>文献レビューの作成 (2)</td> <td>追加論文の発表とディスカッション (2)</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>文献レビューの作成 (3)</td> <td>追加論文の発表とディスカッション (3)</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>文献レビューの作成 (4)</td> <td>追加論文の発表とディスカッション (4)</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>文献レビューの作成 (5)</td> <td>追加論文の発表とディスカッション (5)</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>文献レビューの完成と発表、ディスカッション (1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>文献レビューの完成と発表、ディスカッション (2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>文献レビューの完成と発表、ディスカッション (3)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>文献レビューの完成と発表、ディスカッション (4)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>問題・目的の執筆 (1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>問題・目的の執筆 (2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>方法、結果の分析法の執筆</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>研究計画書の作成と発表 (1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>研究計画書の作成と発表 (2)</td> <td></td> </tr> </table>							第1回	オリエンテーション	進度の確認	第2回	文献レビューの作成 (1)	追加論文の発表とディスカッション (1)	第3回	文献レビューの作成 (2)	追加論文の発表とディスカッション (2)	第4回	文献レビューの作成 (3)	追加論文の発表とディスカッション (3)	第5回	文献レビューの作成 (4)	追加論文の発表とディスカッション (4)	第6回	文献レビューの作成 (5)	追加論文の発表とディスカッション (5)	第7回	文献レビューの完成と発表、ディスカッション (1)		第8回	文献レビューの完成と発表、ディスカッション (2)		第9回	文献レビューの完成と発表、ディスカッション (3)		第10回	文献レビューの完成と発表、ディスカッション (4)		第11回	問題・目的の執筆 (1)		第12回	問題・目的の執筆 (2)		第13回	方法、結果の分析法の執筆		第14回	研究計画書の作成と発表 (1)		第15回	研究計画書の作成と発表 (2)	
第1回	オリエンテーション	進度の確認																																																		
第2回	文献レビューの作成 (1)	追加論文の発表とディスカッション (1)																																																		
第3回	文献レビューの作成 (2)	追加論文の発表とディスカッション (2)																																																		
第4回	文献レビューの作成 (3)	追加論文の発表とディスカッション (3)																																																		
第5回	文献レビューの作成 (4)	追加論文の発表とディスカッション (4)																																																		
第6回	文献レビューの作成 (5)	追加論文の発表とディスカッション (5)																																																		
第7回	文献レビューの完成と発表、ディスカッション (1)																																																			
第8回	文献レビューの完成と発表、ディスカッション (2)																																																			
第9回	文献レビューの完成と発表、ディスカッション (3)																																																			
第10回	文献レビューの完成と発表、ディスカッション (4)																																																			
第11回	問題・目的の執筆 (1)																																																			
第12回	問題・目的の執筆 (2)																																																			
第13回	方法、結果の分析法の執筆																																																			
第14回	研究計画書の作成と発表 (1)																																																			
第15回	研究計画書の作成と発表 (2)																																																			
授業外における学習（準備学習の内容）	積極的に論文を検索し、読みこなしてほしい。また、様々な媒体を通じて、自己のテーマと関連する情報をできるだけ多く収集すること。																																																			
授業方法	ゼミナール方式																																																			
評価基準と評価方法	参加態度（発表内容、質疑応答の適切さ、参加意欲）30%、研究計画書の内容70%																																																			
教科書																																																				
参考書	適宜紹介する。																																																			

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究B						
担当教員	大和田 攝子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文の研究計画の立案						
授業の概要	喪失やトラウマおよびその関連領域における各自の研究テーマについて、修士論文の研究計画を立案することを目指す。先行研究をもとに各自の研究テーマを絞り込み、具体的な研究計画を立てる。						
到達目標	修士論文のテーマを絞り込み、具体的な研究計画を立てることができる。						
授業計画	第1回 文献研究をもとに研究テーマを絞り込む (1) 第2回 文献研究をもとに研究テーマを絞り込む (2) 第3回 文献研究をもとに研究テーマを絞り込む (3) 第4回 文献研究をもとに研究テーマを絞り込む (4) 第5回 文献研究をもとに研究テーマを絞り込む (5) 第6回 具体的な研究計画を立てる (1) 第7回 具体的な研究計画を立てる (2) 第8回 具体的な研究計画を立てる (3) 第9回 具体的な研究計画を立てる (4) 第10回 具体的な研究計画を立てる (5) 第11回 具体的な研究計画を立てる (6) 第12回 具体的な研究計画を立てる (7) 第13回 具体的な研究計画を立てる (8) 第14回 具体的な研究計画を立てる (9) 第15回 具体的な研究計画を立てる (10)						
授業外における学習(準備学習の内容)	各自の研究テーマと関連のある文献を熟読し、レジュメを作成すること。						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	授業への参加度と発表により総合的に評価する。						
教科書							
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究B						
担当教員	黒崎 優美						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文作成に向けての研究						
授業の概要	<p>目的： 臨床心理学的テーマに関する実証的研究を通して、研究者として、また臨床家として必要な知識を習得し、それらの統合と確立を目指します。</p> <p>概要： 受講者の研究計画に基づき、相談の上設定した研究テーマについて、精神分析学、主にBionによる精神病理論や集団理論の観点から明らかにするための研究を行います。</p> <p>キーワード： 臨床心理学、対象関係論、精神分析学</p>						
到達目標	臨床心理学特別研究Aで定めた研究目的を達成するための研究方法を明確化し、それに基づきデータ収集（調査、実験等）と分析を行い、修士論文作成に向けての素材を整えることができる。精神分析学や対象関係論に関する理論・モデルに関する理解を深め、自らの研究、および臨床経験に生かし、その過程を適切に言語化することができる。						
授業計画	<p>第1回 研究方法の明確化（尺度作成、予備調査等）(1)</p> <p>第2回 研究方法の明確化（尺度作成、予備調査等）(2)</p> <p>第3回 研究方法の明確化（尺度作成、予備調査等）(3)</p> <p>第4回 データ収集の計画 (1)</p> <p>第5回 データ収集の計画 (2)</p> <p>第6回 データ収集の計画 (3)</p> <p>第7回 文献研究（仮説モデルに関わる理論・概念）(1)</p> <p>第8回 文献研究（仮説モデルに関わる理論・概念）(2)</p> <p>第9回 文献研究（仮説モデルに関わる理論・概念）(3)</p> <p>第10回 文献研究（仮説モデルに関わる理論・概念）(4)</p> <p>第11回 データ分析 (1)</p> <p>第12回 データ分析 (2)</p> <p>第13回 データ分析 (3)</p> <p>第14回 今後の研究の進め方について (1)</p> <p>第15回 今後の研究の進め方について (2)</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	基本的な活動は授業外に行い、授業では進捗状況の確認や修正を行います。精神分析、対象関係論、そして研究テーマに関する文献購読を積極的に行ってください。						
授業方法	個別指導、もしくは少人数でのゼミ形式						
評価基準と評価方法	ゼミ活動への参加・貢献度：50%、発表・提出物：50%						
教科書	なし						
参考書	メッド・ハフシ (2010) 『「絆」の精神分析—ビオンの原子価の概念から「原子価論」への旅路』ナカニシヤ出版						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究B						
担当教員	榊原 久直						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文のための研究計画を作成する。						
授業の概要	臨床心理学特別研究Aから引き続き、個別のテーマに沿って文献を読むことやディスカッションを行う。そしてその中で、自分のテーマに応じた具体的な研究の手続きについて学び、研究計画を作成していく。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分自身の研究テーマに関連した研究方法とその特徴を説明することができる。 2. 自分自身の研究テーマの具体的なテーマや鍵となる概念を決めることができる。 3. 自分自身の研究テーマに応じた具体的な研究計画を考えることができる。 						
授業計画	第1回：夏休み中の課題に基づいた発表（1） 第2回：夏休み中の課題に基づいた発表（2） 第3回：夏休み中の課題に基づいた発表（3） 第4回：文献レビューの作成（1） 第5回：文献レビューの作成（2） 第6回：文献レビューの作成（3） 第7回：文献レビューの作成（4） 第8回：文献レビューの作成（5） 第9回：文献レビューの作成（6） 第10回：問題と目的の検討（1） 第11回：問題と目的の検討（2） 第12回：方法と結果の分析方法の検討（1） 第13回：方法と結果の分析方法の検討（1） 第14回：研究計画書の作成と発表（1） 第15回：研究計画書の作成と発表（2）						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業は学生の発表がメインである。毎回もしくは隔週で発表の順番が回ってくるので、修士論文につながる国内外の文献や調査を自ら調べて、理解してまとめることが必要である。また興味を持った領域の本を読み進めていくことを推奨する。						
授業方法	ゼミ形式。						
評価基準と評価方法	ゼミ活動への参加・貢献度：50%/発表・提出物（50%）						
教科書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。						
参考書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究B						
担当教員	坂本 真佐哉						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学研究の基礎について学ぶ。また、心理援助の基本について学ぶとともに、家族療法（システムズアプローチ）やブリーフセラピーの基礎理論について学ぶ。						
授業の概要	家族療法やブリーフセラピーの領域に関する理論的枠組みや技法について、文献やロールプレイを通して学ぶ。また、この領域における研究について概観し、自らの研究テーマを模索する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族療法（システムズアプローチ）やブリーフセラピーの理論や技法について説明できる。 2. 関心の領域についての臨床心理学の理論について説明でき、研究計画を立てるために必要な文献を読み、発表することができる。 3. 修士論文のための研究計画を立案することができる 						
授業計画	第1回 授業のすすめ方（ガイダンス） 第2回 臨床心理学における研究方法について 第3回 臨床心理学研究の実際（発表とディスカッション）（1） 第4回 臨床心理学研究の実際（発表とディスカッション）（2） 第5回 臨床心理学研究の実際（発表とディスカッション）（3） 第6回 臨床心理学研究の実際（発表とディスカッション）（4） 第7回 臨床心理学研究の実際（発表とディスカッション）（5） 第8回 臨床心理学研究の実際（発表とディスカッション）（6） 第9回 臨床心理学研究の実際（発表とディスカッション）（7） 第10回 臨床心理学研究の実際（発表とディスカッション）（8） 第11回 臨床心理学研究の実際（発表とディスカッション）（9） 第12回 臨床心理学研究の実際（発表とディスカッション）（10） 第13回 臨床心理学研究の実際（発表とディスカッション）（11） 第14回 臨床心理学研究の実際（発表とディスカッション）（12） 第15回 臨床心理学研究の実際（発表とディスカッション）（13）						
授業外における学習（準備学習の内容）	家族療法（システムズアプローチ）やブリーフセラピーの専門書、論文などを熟読すること						
授業方法	講義、文献研究、グループディスカッション、ロールプレイ						
評価基準と評価方法	学びの姿勢や態度、臨床技術の習熟度と理解度、発表や発言の内容などによって総合的に判断する						
教科書	なし						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究B						
担当教員	中村 博文						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文研究テーマの決定						
授業の概要	様々な事象について、それを臨床心理学的な視点からどのように把握するかを学ぶ。また、修士論文研究のテーマを決定する。						
到達目標	関心のある心理学的現象に関わる先行研究を取り上げ、発表することができる。 修士論文研究のテーマを決定し、研究計画を作成できる。						
授業計画	#01：関心のある領域・テーマについての文献レビューと討論(1) #02：関心のある領域・テーマについての文献レビューと討論(2) #03：関心のある領域・テーマについての文献レビューと討論(3) #04：関心のある領域・テーマについての文献レビューと討論(4) #05：関心のある領域・テーマについての文献レビューと討論(5) #06：関心のある領域・テーマについての文献レビューと討論(6) #07：関心のある領域・テーマについての文献レビューと討論(7) #08：関心のある領域・テーマについての文献レビューと討論(8) #09：関心のある領域・テーマについての文献レビューと討論(9) #10：関心のある領域・テーマについての文献レビューと討論(10) #11：関心のある領域・テーマについての文献レビューと討論(11) #12：関心のある領域・テーマについての文献レビューと討論(12) #13：関心のある領域・テーマについての文献レビューと討論(13) #14：修士論文テーマの決定・研究計画の作成・報告(1) #15：修士論文テーマの決定・研究計画の作成・報告(2)						
授業外における学習(準備学習の内容)	それぞれ関心がある領域についての文献を検索し、発表資料としてまとめること。						
授業方法	演習形式。 授業では、文献レビューの発表と、それに基づく討論を行う。						
評価基準と評価方法	授業での発表(40%)、研究計画の作成(40%)、および討論への参加の程度(20%)により評価する。						
教科書	指定しない。						
参考書	適時紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特論						
担当教員	前) 安達圭一郎 後) 坂本真佐哉						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	4.0
授業のテーマ	心理臨床の現場に立つ者として是非とも理解しておきたい心の問題、心理支援の方法、またその際に必要となる倫理やマナーについて教授する。						
授業の概要	心理臨床の専門家として門出する院生が、幅広い臨床心理学の分野について一定の知識・素養を身に着けることが大きな目的である。前期は、臨床心理学的な諸問題を取りあげ、問題となる行動や症状を効果的にアセスメントし、支援に結びつけるための基礎的方法を中心に講義を展開する。また、後期では、主要な心理療法について、その理論や技法を中心に講義を展開する。さらに、こうした講義を通して、心理臨床家に必要な倫理事項やマナーについても適宜教授する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 臨床心理学的諸問題の具体的内容について説明できる。 臨床心理学的支援・心理療法の具体的内容について説明できる。 心理臨床家として必要な倫理事項やマナーについて説明できる。 						
授業計画	<p>【前期：第1回～15回 安達担当】</p> <p>第1回 様々な症状論 (1) 第2回 様々な症状論 (2) 第3回 臨床心理学的援助の考え方 (1) 第4回 臨床心理学的援助の考え方 (2) 第5回 気分障害の事例について (1) 大うつ病性障害 第6回 気分障害の事例について (2) 双極性障害 第7回 不安障害の事例について 第8回 摂食障害の事例について 第9回 身体表現性障害の事例について 第10回 パーソナリティ障害の事例について 第11回 統合失調症の事例について 第12回 不登校の事例について 第13回 発達障害の事例について 第14回 がん患者の事例について 第15回 まとめと心理療法の可能性について</p> <p>【後期：第16回～30回 坂本担当】</p> <p>後半の授業のすすめ方について (ガイダンス) 第17回 精神分析的な心理療法の事例に学ぶ (1) 第18回 行動療法の事例に学ぶ (1) 第19回 来談者中心療法の事例に学ぶ (1) 第20回 認知行動療法の事例に学ぶ (1) 第21回 家族療法の事例に学ぶ (1) 第22回 その他の心理療法について事例から学ぶ (1) 第23回 心理療法の倫理について事例から学ぶ (1) 第24回 精神分析的な心理療法の事例に学ぶ (2) 第25回 行動療法の事例に学ぶ (2) 第26回 来談者中心療法の事例に学ぶ (2) 第27回 認知行動療法の事例に学ぶ (2) 第28回 家族療法の事例に学ぶ (2) 第29回 その他の心理療法について事例から学ぶ (2) 第30回 心理療法の倫理について事例から学ぶ (2)</p>						
授業外における学習 (準備学習の内容)	学外実習や神戸松蔭こころのケア・センターでの実習を、謙虚な姿勢で学ぶこと。						
授業方法	講義と受講者による発表やディスカッション						
評価基準と評価方法	発表内容 (50%)、ディスカッションの姿勢や質疑応答など講義への関与度 (30%)、テスト (20%)						
教科書	特に指定しない。適宜、資料を配布する。						

参考書	講義の中で紹介する。
-----	------------

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理基礎実習						
担当教員	大和田攝子・中村博文・黒崎優美						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜5～6	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	心理臨床的援助における基本的技能の習得						
授業の概要	<p>心理臨床的援助の基本的技能を身につけることを目的とする。授業には、次のような内容が含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎講義の受講（前期） ・ロール・プレイの実施と検討（前期） ・神戸松蔭こころのケア・センターでの、相談実務実習（2015年6月～2016年3月） ・神戸松蔭こころのケア・センターでの、陪席、ケース担当実習（2015年10月～2016年3月） ・学外スーパーヴァイザーとの、スーパーヴィジョン実習（ケース担当後～） ・学外協力機関での、学外実習（2015年10月～2016年3月） ・ケース・カンファレンスへの参加（通年） 						
到達目標	<p>前期：心理臨床的援助の対象者と適切な関わりを可能とするために必要となる、最も基本的な知識、技術、ならびに態度について、説明することができる。</p> <p>後期：前期で学んだことをもとに、指導を受けながら対象者と関われるようになる。</p>						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・前期（6月以降は、相談実務実習が開始される） #01：実習全般に関するオリエンテーション #02：ケア・センターの利用の仕方 #03：基礎講義(1) クライアントとの接し方のポイント #04：基礎講義(2) インテーク面接のポイント #05：基礎講義(3) 心理査定実施のポイント #06：基礎講義(4) 家族との接し方のポイント #07：基礎講義(5) プレイセラピーのポイント #08：基礎講義(6) 心理療法の構造作りのポイント #09：基礎講義(7) 紹介先や他機関との連携の仕方 #10：ロール・プレイの実施と検討(1) #11：ロール・プレイの実施と検討(2) #12：ロール・プレイの実施と検討(3) #13：ロール・プレイの実施と検討(4) #14：ロール・プレイの実施と検討(5) #15：前期のまとめ ・後期 #16：相談実務実習、陪席、ケース担当実習、学外実習、スーパーヴィジョン実習とその検討(1) #17：相談実務実習、陪席、ケース担当実習、学外実習、スーパーヴィジョン実習とその検討(2) #18：相談実務実習、陪席、ケース担当実習、学外実習、スーパーヴィジョン実習とその検討(3) #19：相談実務実習、陪席、ケース担当実習、学外実習、スーパーヴィジョン実習とその検討(4) #20：相談実務実習、陪席、ケース担当実習、学外実習、スーパーヴィジョン実習とその検討(5) #21：相談実務実習、陪席、ケース担当実習、学外実習、スーパーヴィジョン実習とその検討(6) #22：相談実務実習、陪席、ケース担当実習、学外実習、スーパーヴィジョン実習とその検討(7) #23：相談実務実習、陪席、ケース担当実習、学外実習、スーパーヴィジョン実習とその検討(8) #24：相談実務実習、陪席、ケース担当実習、学外実習、スーパーヴィジョン実習とその検討(9) #25：相談実務実習、陪席、ケース担当実習、学外実習、スーパーヴィジョン実習とその検討(10) #26：相談実務実習、陪席、ケース担当実習、学外実習、スーパーヴィジョン実習とその検討(11) #27：相談実務実習、陪席、ケース担当実習、学外実習、スーパーヴィジョン実習とその検討(12) #28：相談実務実習、陪席、ケース担当実習、学外実習、スーパーヴィジョン実習とその検討(13) #29：相談実務実習、陪席、ケース担当実習、学外実習、スーパーヴィジョン実習とその検討(14) #30：相談実務実習、陪席、ケース担当実習、学外実習、スーパーヴィジョン実習とその検討(15) <p>※以上に加えて、前後期を通じて、ケース・カンファレンス（「臨床心理実習」）に、毎回参加しなければならない。</p> <p>※陪席、ケース担当実習、および学外実習については、授業の他に必要に応じて指導を受ける。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎講義：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 ・ロール・プレイ：逐語録を作成すること。 ・神戸松蔭こころのケア・センターでの陪席、ケース担当実習：担当ケースに関連する文献を検索し、読んでおくこと。担当ケースの面接記録を作成すること。カンファレンスにおける担当ケースの報告資料作成、ならびにケース報告を行うこと。 ・スーパーヴィジョン実習：スーパーヴァイザーにより指示される形式で、資料を作成すること。 ・学外実習：実習報告書の作成を行うこと。 						

授業方法	講義, 演習, 実習。
評価基準と評価方法	実習への参加態度 (40%), 各種報告書や作成資料 (30%), カンファレンスでの報告や発言 (30%) により評価する。
教科書	鏑 幹八郎・名島潤慈 (編著) 2010 心理臨床家の手引き 第3版 誠信書房 ISBN978-4-414-40059-5
参考書	授業の進行に伴って紹介する。

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理査定演習I						
担当教員	黒崎 優美						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理査定の実践的理解						
授業の概要	<p>目的： 臨床心理査定、特に検査法について、代表的な臨床心理検査の施行・解釈ができる程度の、実践的知識の習得を目的とします。</p> <p>概要： 小グループで、被検査者・検査者・記録者に分かれ、いくつかの心理検査を施行し、そのデータを用いて、結果の出し方・解釈の仕方・所見の書き方などについて学びます。</p> <p>キーワード： 臨床心理査定、臨床心理検査、ロールシャッハ・テスト</p>						
到達目標	代表的な臨床心理検査（特にロールシャッハ・テスト）について、施行・スコアリング・解釈を行い、所見をまとめることができる。						
授業計画	第1回 臨床心理査定の意義と方法 第2回 代表的な臨床心理検査(1) ～施行～ 第3回 ロールシャッハ・テスト(1) ～施行法～ 第4回 ロールシャッハ・テスト(2) ～スコアリング法～ 第5回 ロールシャッハ・テスト(3) ～Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ図版～ 第6回 ロールシャッハ・テスト(4) ～Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ図版～ 第7回 ロールシャッハ・テスト(5) ～Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ図版～ 第8回 ロールシャッハ・テスト(6) ～結果の整理～ 第9回 ロールシャッハ・テスト(7) ～結果の解釈～ 第10回 代表的な臨床心理検査(2) ～スコアリング～ 第11回 代表的な臨床心理検査(3) ～結果の整理と解釈～ 第12回 臨床心理検査所見の書き方(1) 第13回 臨床心理検査所見の書き方(2) 第14回 共有とまとめ(1) 第15回 共有とまとめ(2)						
授業外における学習（準備学習の内容）	原則作業は課題とし、授業時間を使って理解の共有・修正・確認を行います。						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	授業への参加・貢献度：40%、提出物：60%						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	新・心理診断法ーロールシャッハ・テストの解説と研究、片口安史著、金子書房、ISBN10：4760825487						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理査定演習II						
担当教員	中村 博文						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理アセスメントの実際						
授業の概要	<p>投映法検査、質問紙検査、知能検査、発達検査などの各種心理検査について、実際の臨床現場での検査実施や臨床事例の検討などを通じて、その臨床的応用の方法について検討する。</p> <p>また、検査の応用を含む、臨床心理査定について学習する。</p>						
到達目標	<p>臨床心理アセスメントについて説明できる。</p> <p>必要に応じた適切なテストバッテリーを組み、実施することができる。</p> <p>テスト結果を分析、解釈し、所見を作成できる。</p>						
授業計画	<p>#01：テスト・バッテリー</p> <p>#02：臨床事例検討(1)</p> <p>#03：心理臨床実践における質問紙検査の利用</p> <p>#04：臨床事例検討(2)</p> <p>#05：臨床事例検討(3)</p> <p>#06：心理臨床実践における知能検査の利用</p> <p>#07：臨床事例検討(4)</p> <p>#08：臨床事例検討(5)</p> <p>#09：心理臨床実践における発達検査の利用</p> <p>#10：臨床事例検討(6)</p> <p>#11：臨床事例検討(7)</p> <p>#12：心理臨床実践における投映法検査の利用</p> <p>#13：臨床事例検討(8)</p> <p>#14：臨床事例検討(9)</p> <p>#15：まとめ、レポート提出</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>協力機関(心療内科クリニック、神戸松蔭こころのケア・センター)において心理検査を実施し、結果をまとめ、授業内で報告すること。</p> <p>また、授業で検討した各種検査について、文献による学習を深めること。</p>						
授業方法	講義、および実習、演習。						
評価基準と評価方法	授業への参加態度(60%)、および期末レポート(40%)により評価する。						
教科書	必要に応じて、資料を配付する。						
参考書	適時紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目																																																																																																																																																																																										
科目名	臨床心理実習																																																																																																																																																																																										
担当教員	安達圭一郎・坂本真佐哉・榊原久直																																																																																																																																																																																										
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜1～2	配当学年	2	単位数	2.0																																																																																																																																																																																				
授業のテーマ	心理臨床的援助における応用的技能の習得。																																																																																																																																																																																										
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学内実習施設における相談実務実習。 2. 同じく学内実習施設においてクライアントの相談面接を担当し、教員の指導と学外専門家のスーパーヴィジョンを受けながら臨床心理学的援助の実際を学ぶ。 3. ケースカンファレンスで事例を報告し、討論を行なう。 4. 担当した事例について、事例研究として論文にまとめる。 5. 病院や学校など学外の施設において心理臨床業務の実際について、実習を通して学習する。また、他職種の専門性についての理解を深め、チームとしての業務の進め方などについて体験的に学ぶ。 																																																																																																																																																																																										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 相談実務実習を通して心理相談の流れを理解し、来談者への電話対応、応接ができる。 2. 心理援助における見立ておよびケースマネジメントについて理解し、実践できる。 3. 事例研究の方法を理解し、事例研究論文としてまとめることができる。 4. 学外実習を通して、専門機関の実際について理解し、与えられた職務を実践できる。 																																																																																																																																																																																										
授業計画	<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>学内実習、</td><td>ケースカンファレンス、</td><td>事例研究、</td><td>学外実習</td><td>(1)</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>学内実習、</td><td>ケースカンファレンス、</td><td>事例研究、</td><td>学外実習</td><td>(2)</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>学内実習、</td><td>ケースカンファレンス、</td><td>事例研究、</td><td>学外実習</td><td>(3)</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>学内実習、</td><td>ケースカンファレンス、</td><td>事例研究、</td><td>学外実習</td><td>(4)</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>学内実習、</td><td>ケースカンファレンス、</td><td>事例研究、</td><td>学外実習</td><td>(5)</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>学内実習、</td><td>ケースカンファレンス、</td><td>事例研究、</td><td>学外実習</td><td>(6)</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>学内実習、</td><td>ケースカンファレンス、</td><td>事例研究、</td><td>学外実習</td><td>(7)</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>学内実習、</td><td>ケースカンファレンス、</td><td>事例研究、</td><td>学外実習</td><td>(8)</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>学内実習、</td><td>ケースカンファレンス、</td><td>事例研究、</td><td>学外実習</td><td>(9)</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>学内実習、</td><td>ケースカンファレンス、</td><td>事例研究、</td><td>学外実習</td><td>(10)</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>学内実習、</td><td>ケースカンファレンス、</td><td>事例研究、</td><td>学外実習</td><td>(11)</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>学内実習、</td><td>ケースカンファレンス、</td><td>事例研究、</td><td>学外実習</td><td>(12)</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>学内実習、</td><td>ケースカンファレンス、</td><td>事例研究、</td><td>学外実習</td><td>(13)</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>学内実習、</td><td>ケースカンファレンス、</td><td>事例研究、</td><td>学外実習</td><td>(14)</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>学内実習、</td><td>ケースカンファレンス、</td><td>事例研究、</td><td>学外実習</td><td>(15)</td></tr> <tr><td>第16回</td><td>学内実習、</td><td>ケースカンファレンス、</td><td>事例研究、</td><td>学外実習</td><td>(16)</td></tr> <tr><td>第17回</td><td>学内実習、</td><td>ケースカンファレンス、</td><td>事例研究、</td><td>学外実習</td><td>(17)</td></tr> <tr><td>第18回</td><td>学内実習、</td><td>ケースカンファレンス、</td><td>事例研究、</td><td>学外実習</td><td>(18)</td></tr> <tr><td>第19回</td><td>学内実習、</td><td>ケースカンファレンス、</td><td>事例研究、</td><td>学外実習</td><td>(19)</td></tr> <tr><td>第20回</td><td>学内実習、</td><td>ケースカンファレンス、</td><td>事例研究、</td><td>学外実習</td><td>(20)</td></tr> <tr><td>第21回</td><td>学内実習、</td><td>ケースカンファレンス、</td><td>事例研究、</td><td>学外実習</td><td>(21)</td></tr> <tr><td>第22回</td><td>学内実習、</td><td>ケースカンファレンス、</td><td>事例研究、</td><td>学外実習</td><td>(22)</td></tr> <tr><td>第23回</td><td>学内実習、</td><td>ケースカンファレンス、</td><td>事例研究、</td><td>学外実習</td><td>(23)</td></tr> <tr><td>第24回</td><td>学内実習、</td><td>ケースカンファレンス、</td><td>事例研究、</td><td>学外実習</td><td>(24)</td></tr> <tr><td>第25回</td><td>学内実習、</td><td>ケースカンファレンス、</td><td>事例研究、</td><td>学外実習</td><td>(25)</td></tr> <tr><td>第26回</td><td>学内実習、</td><td>ケースカンファレンス、</td><td>事例研究、</td><td>学外実習</td><td>(26)</td></tr> <tr><td>第27回</td><td>学内実習、</td><td>ケースカンファレンス、</td><td>事例研究、</td><td>学外実習</td><td>(27)</td></tr> <tr><td>第28回</td><td>学内実習、</td><td>ケースカンファレンス、</td><td>事例研究、</td><td>学外実習</td><td>(28)</td></tr> <tr><td>第29回</td><td>学内実習、</td><td>ケースカンファレンス、</td><td>事例研究、</td><td>学外実習</td><td>(29)</td></tr> <tr><td>第30回</td><td>学内実習、</td><td>ケースカンファレンス、</td><td>事例研究、</td><td>学外実習</td><td>(30)</td></tr> </table>							第1回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(1)	第2回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(2)	第3回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(3)	第4回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(4)	第5回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(5)	第6回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(6)	第7回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(7)	第8回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(8)	第9回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(9)	第10回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(10)	第11回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(11)	第12回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(12)	第13回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(13)	第14回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(14)	第15回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(15)	第16回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(16)	第17回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(17)	第18回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(18)	第19回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(19)	第20回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(20)	第21回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(21)	第22回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(22)	第23回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(23)	第24回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(24)	第25回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(25)	第26回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(26)	第27回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(27)	第28回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(28)	第29回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(29)	第30回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(30)
第1回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(1)																																																																																																																																																																																						
第2回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(2)																																																																																																																																																																																						
第3回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(3)																																																																																																																																																																																						
第4回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(4)																																																																																																																																																																																						
第5回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(5)																																																																																																																																																																																						
第6回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(6)																																																																																																																																																																																						
第7回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(7)																																																																																																																																																																																						
第8回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(8)																																																																																																																																																																																						
第9回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(9)																																																																																																																																																																																						
第10回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(10)																																																																																																																																																																																						
第11回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(11)																																																																																																																																																																																						
第12回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(12)																																																																																																																																																																																						
第13回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(13)																																																																																																																																																																																						
第14回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(14)																																																																																																																																																																																						
第15回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(15)																																																																																																																																																																																						
第16回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(16)																																																																																																																																																																																						
第17回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(17)																																																																																																																																																																																						
第18回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(18)																																																																																																																																																																																						
第19回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(19)																																																																																																																																																																																						
第20回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(20)																																																																																																																																																																																						
第21回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(21)																																																																																																																																																																																						
第22回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(22)																																																																																																																																																																																						
第23回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(23)																																																																																																																																																																																						
第24回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(24)																																																																																																																																																																																						
第25回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(25)																																																																																																																																																																																						
第26回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(26)																																																																																																																																																																																						
第27回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(27)																																																																																																																																																																																						
第28回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(28)																																																																																																																																																																																						
第29回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(29)																																																																																																																																																																																						
第30回	学内実習、	ケースカンファレンス、	事例研究、	学外実習	(30)																																																																																																																																																																																						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・事例研究論文やその他の論文、専門書などを読み、さまざまな事例への対応および専門機関における実践について学ぶこと。 ・神戸松蔭こころのケア・センターでの陪席、ケース担当実習：担当ケースに関連する文献を検索し、読んでおくこと。担当ケースの面接記録を作成すること。カンファレンスにおける担当ケースの報告資料作成、ならびにケース報告を行うこと。 ・スーパーヴィジョン実習：スーパーヴァイザーにより指示される形式で、資料を作成すること。 ・学外実習：実習報告書の作成を行うこと。 																																																																																																																																																																																										
授業方法	学内実習施設「神戸松蔭こころのケア・センター」及び学外実習施設における実習とカンファレンスでの討論																																																																																																																																																																																										
評価基準と評価方法	実習への参加態度（40%）、各種報告書や作成資料（30%）、カンファレンスでの報告や発言（30%）																																																																																																																																																																																										

教科書	授業の進行に伴って紹介する
参考書	授業の進行に伴って紹介する

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理面接特論Ⅰ						
担当教員	中村 博文						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	心理臨床面接における基礎的技法の習得						
授業の概要	臨床心理面接を行うための基本的態度および基礎的技法を、応答訓練、ロールプレイ、試行カウンセリングなどを通じて、体験的に学習する。						
到達目標	心理臨床面接の特徴を説明できる。 臨床心理面接で必要となる基本的な応答技法を用いることができる。 試行カウンセリングを行い、そのプロセスを資料にまとめ、発表できる。						
授業計画	#01：オリエンテーション/心理臨床家としての基本的態度 #02：応答訓練(1)－応答技法 #03：応答訓練(2)－紙上応答/試行カウンセリングの準備 #04：応答訓練(3)－聴取応答 #05：応答訓練(4)－ロールプレイ(1) #06：応答訓練(5)－ロールプレイ(2) #07：試行カウンセリングの検討(1) #08：試行カウンセリングの検討(2) #09：試行カウンセリングの検討(3) #10：試行カウンセリングの検討(4) #11：試行カウンセリングの検討(5) #12：試行カウンセリングの検討(6) #13：試行カウンセリングの検討(7) #14：試行カウンセリングの検討(8) #15：まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	教科書の該当部分を読んでおくこと。 試行カウンセリングの様子を録音し、逐語録の作成を行うこと。						
授業方法	講義、および実習、演習。 受講者は、5回の試行カウンセリングを行い、授業内で発表を行わなければならない。また、その発表に基づいて、討論を行う。						
評価基準と評価方法	授業への参加態度(60%)、および試行カウンセリングの発表(40%)により評価する。						
教科書	鏑 幹八郎 1977 試行カウンセリング 誠信書房 ISBN978-4414401295						
参考書	Ivey, A. E. 福原真知子・相山喜代子・國分久子・楡木満生(訳編) 1985 マイクロカウンセリング “学ばー使うー教える” 技法の統合：その理論と実際 川島書店 ISBN978-4761003296 土居健郎 1992 新訂・方法としての面接－臨床家のために 医学書院 ISBN978-4-260-11769-2						

科目区分	【修士】心理学専攻科目																																																			
科目名	臨床心理面接特論Ⅱ																																																			
担当教員	安達 圭一郎																																																			
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0																																													
授業のテーマ	対人関係療法（IPT）の技法の特徴や経過について体験的に理解する。																																																			
授業の概要	西洋諸国では、認知行動療法と双璧をなすエビデンスベーストな（科学的根拠のある）心理療法と言われている。本講義では、こうしたIPTの治療戦略、治療経過、必要とされる治療者の態度などを詳述し、ロールプレイを交えながら、IPTの体験的理解を促す。																																																			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ IPTがもつ特徴を具体的に挙げ、説明することができる。 ・ IPT治療者として必要な態度を具体的に説明することができる。 ・ 治療初期・中期・終結期における治療目標、治療戦略を具体的に挙げるができる。 ・ 4つの問題領域について、治療目標、治療戦略の観点から説明することができる。 																																																			
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション</td> <td>講義概要と受講要件の確認</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>IPTとは(1)</td> <td>概観と特徴、目標</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>IPTとは(2)</td> <td>科学的根拠について</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>IPTとは(3)</td> <td>治療者の役割と病者の役割</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>IPTの治療プロセス(1)</td> <td>初期</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>IPTの治療プロセス(2)</td> <td>問題領域などのフォーミュレーションとロールプレイ</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>IPTの治療プロセス(3)</td> <td>中期</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>IPTの治療プロセス(4)</td> <td>問題領域に応じた治療戦略の構築とロールプレイ</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>IPTの治療プロセス(5)</td> <td>終結期</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>IPTによる治療事例(1)</td> <td>典型的なうつ病患者に対する自験例</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>IPTによる治療事例(2)</td> <td>非定型（現代型など）うつ病に対する自験例</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>IPTの応用</td> <td>双極性障害、パーソナリティ障害、高齢者などへの応用</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>IPT技法のまとめ(1)</td> <td>ロールプレイ</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>IPT技法のまとめ(2)</td> <td>ロールプレイ</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>IPT技法のまとめ(3)</td> <td>ロールプレイ</td> </tr> </table>							第1回	オリエンテーション	講義概要と受講要件の確認	第2回	IPTとは(1)	概観と特徴、目標	第3回	IPTとは(2)	科学的根拠について	第4回	IPTとは(3)	治療者の役割と病者の役割	第5回	IPTの治療プロセス(1)	初期	第6回	IPTの治療プロセス(2)	問題領域などのフォーミュレーションとロールプレイ	第7回	IPTの治療プロセス(3)	中期	第8回	IPTの治療プロセス(4)	問題領域に応じた治療戦略の構築とロールプレイ	第9回	IPTの治療プロセス(5)	終結期	第10回	IPTによる治療事例(1)	典型的なうつ病患者に対する自験例	第11回	IPTによる治療事例(2)	非定型（現代型など）うつ病に対する自験例	第12回	IPTの応用	双極性障害、パーソナリティ障害、高齢者などへの応用	第13回	IPT技法のまとめ(1)	ロールプレイ	第14回	IPT技法のまとめ(2)	ロールプレイ	第15回	IPT技法のまとめ(3)	ロールプレイ
第1回	オリエンテーション	講義概要と受講要件の確認																																																		
第2回	IPTとは(1)	概観と特徴、目標																																																		
第3回	IPTとは(2)	科学的根拠について																																																		
第4回	IPTとは(3)	治療者の役割と病者の役割																																																		
第5回	IPTの治療プロセス(1)	初期																																																		
第6回	IPTの治療プロセス(2)	問題領域などのフォーミュレーションとロールプレイ																																																		
第7回	IPTの治療プロセス(3)	中期																																																		
第8回	IPTの治療プロセス(4)	問題領域に応じた治療戦略の構築とロールプレイ																																																		
第9回	IPTの治療プロセス(5)	終結期																																																		
第10回	IPTによる治療事例(1)	典型的なうつ病患者に対する自験例																																																		
第11回	IPTによる治療事例(2)	非定型（現代型など）うつ病に対する自験例																																																		
第12回	IPTの応用	双極性障害、パーソナリティ障害、高齢者などへの応用																																																		
第13回	IPT技法のまとめ(1)	ロールプレイ																																																		
第14回	IPT技法のまとめ(2)	ロールプレイ																																																		
第15回	IPT技法のまとめ(3)	ロールプレイ																																																		
授業外における学習（準備学習の内容）	講義前にはテキストの該当箇所を読んでおくこと。																																																			
授業方法	講義と演習を織り交ぜる。																																																			
評価基準と評価方法	受講態度30%、期末試験70%																																																			
教科書	水島広子「臨床家のための対人関係療法入門ガイド」創元社																																																			
参考書	適宜紹介する。																																																			

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床薬理学特論						
担当教員	若栄 徳彦						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学における臨床薬理学（薬物心理学）						
授業の概要	薬物心理学を主とした臨床薬理学 最初に、向精神薬が作用するメカニズムに関して化学的・生物学的な基盤を学習する。続いて、向精神薬を実際に臨床の場面で用いる際に、医者・患者間で生じ得る心理療法的ダイナミクスについて触れる。続いて、各種向精神薬（抗不安薬、睡眠薬、抗うつ薬・気分安定薬、抗精神病薬など）について各種の特徴（プロフィール）・副作用などについて各論的に学習する。						
到達目標	クライアントに薬の説明ができるようにする						
授業計画	第1回 総論 (1) 第2回 総論 (2) 第3回 総論 (3) 第4回 抗精神病薬 (1) 第5回 抗精神病薬 (2) 第6回 抗精神病薬 (3) 第7回 抗うつ薬 (1) 第8回 抗うつ薬 (2) 第9回 抗うつ薬 (3) 第10回 抗不安薬 (1) 第11回 抗不安薬 (2) 第12回 抗不安薬 (3) 第13回 その他 (1) 第14回 その他 (2) 第15回 その他 (3)						
授業外における学習（準備学習の内容）	実習を通じて薬物療法の実際を理解する。						
授業方法	主として講義形式、テーマにより発表や討論も行なう。						
評価基準と評価方法	授業への参加態度、発表、レポートなどを総合的に評価する。 レポート(1回) 50%、講義中の応答・態度(50%)						
教科書	教材はプリントを配布する。						
参考書	必要に応じて、適宜、授業中に紹介する						